

■個別事業の実施状況・評価とりまとめ

区分	5つの方向性	事業	実施計画期間中の事業実施状況(●)や課題(□)	まとめ	事業展開(実績結果)	課題認識・今後の方向性
増やす	創出	赤塚公園整備事業	●平成29年4月に遊具広場約4.5haを一部供用開始 ●供用開始年度の公園利用者目標500人に対して、1,900人を超える来場者あり ●令和4年6月に、約230台収容可能な駐車場整備が完了 ●令和4年度末で、12.4haを供用中の見込み。（約54％供用済）  □平成29年4月の供用開始以降駐車場が不足し、周辺道路への路上駐車が発生 □事業計画の見直し等により、当初想定よりも工事の進捗は鈍化している。	評価：優 H29年度に一部供用を開始して以降、整備済の区域から順次供用しており、多くの市民に利用され人気の公園となっている。 R3年度末で10.9ha供用し、不足していた駐車場の整備やイベント広場の整備が進んでいる。	継続実施	◆第3次実施計画期間内の事業完了を目指し、引き続き整備を実施。 ◆運動施設などの有料公園施設の整備が今後予定されており、P-PFIなど、民間活力を導入した整備や管理運営について検討していく。
		信濃川やすらぎ堤緑地整備事業	【上所工区（昭和大桥下流～ユニソンプラザ付近までの右岸側）】 ●平成29年4月に約7.8haを供用開始 ●昭和大桥との階段及びスロープの設置により、利便性が向上 ●芝生や樹木を中心とした緑地を整備  【新光町工区（千歳大桥下流～本川大桥までの右岸側）】 ●令和3年度から、新光町工区約3.2haの整備を開始 ●芝生や樹木等を中心とした緑地を整備予定  □国が整備している堤防を緑地として活用するため、信濃川堤防築堤工事と調整しながら工事を進める必要がある。	評価：優 国と調整を行い、R3年度より新光町工区（千歳大桥から本川大桥までの右岸側）について、整備を開始。R6年度頃の完成に向け、整備を進めている。	継続実施	◆第3次実施計画期間の前半での事業完了を目指し、引き続き整備を実施。 ◆まちなかの貴重なみどりの空間であり、早期の効果発現が求められる。
		白新線公園整備事業	●平成28年3月に一部供用し、令和3年4月に約0.5haを全面供用開始 ●高台の緑地や平場の遊具ゾーンを整備  □交付金の内示状況により、当初想定よりも完成に時間を要したが、R2年度に完了した。	評価：特優 本所地内のJR白新線廃線跡地を活用した公園整備を行い、R2年度に完了した。	事業完了	
		都市公園ストック再編事業	●平成30年度より、既存公園のリニューアルを実施 ●令和3年度末で5公園の再整備が完了し、現在は2公園で事業実施中 ●再整備の際は、近隣保育園や地元自治会の意見を取り入れながら整備内容を検討している。  □交付金の内示状況により、単年度での再整備完了は難しい。	評価：特優 R元年度から、既存公園のリニューアルを実施。再整備の際は、地元とのワークショップなどにより、地域ニーズを踏まえた再整備を実施しており、令和4年度末見込みで5公園の再整備が完了予定である。	継続実施	◆引き続き、地域ニーズを踏まえた再整備を実施。
	推進	フラワーパートナー事業	●既存事業の統合廃止により、平成30年から新規事業として実施している。 ●令和元年度から東大通47基をパートナー団体が管理し始め、年々増加している。 ●令和2年度から駅南口52基の団体管理が開始。 ●令和4年度末時点で、東大通の134基、新潟駅南口広場の52基すべてをパートナー団体が管理 ●参加団体数は14企業7団体 ●春のチューリップのほか季節にあわせた植栽を実施 ●令和4年度には、花育マスターを招き、植栽指導を実施	評価：特優 令和元年度から開始し、令和4年度末見込みで21団体がパートナー団体として活動している。 全てのプランターをパートナー団体が管理している。	継続実施	◆団体により、花壇管理の質の差が見られることから、必要に応じて指導、支援を検討 ◆引き続き、団体に管理していただけるよう継続していくとともに、募集花壇数の拡大を検討
		公共施設緑化ガイドライン	●事前協議により限られたスペースでの緑化について検討しながら設計をしている。 ●令和元年度から4年度では事前協議2件を行い、うち1件は緑化率が努力目標に達した。  □基本設計時点での協議を求めているが、実施設計時となる場合が散見される。 □制度周知に努め、適切な時期の協議となるように努める必要あり。	評価：優 直近の事前協議では緑化率が努力目標に達しているが、対象となる施設が漏れなく協議を行うように促す仕組みづくりが必要と考えている。	継続実施	◆対象となる施設について漏れなく協議を実施する仕組みが必要。 ◆量を確保できない場合に質を上げる方法などについても検討が必要。
		緑地協定締結の推進及び地区内における生垣等設置補助事業	□緑地協定を結んだ地域における、生垣等の設置費を補助する事業であるが、平成30年度以降事業活用実績が0となっている。 □緑地協定の新規締結は平成28年度以降無く、既存協定地区も協定期間終了により、地区数が減少した。	評価：不可 H30年度以降申請件数が0件となっているが、協定地区内の申請に備えて制度継続の必要性がある。 一方で、民有地の緑化促進手段として本制度が今後も必要であるかを含め、制度の抜本検討が必要と考えられる。	抜本改革	◆当面は制度を維持・継続するとともに、必要性の低下等（住宅外構としてニーズがない等）を確認しながら、制度の縮小・廃止・改革を検討
守る	保全	保存樹指定事業	●樹木マップやパネル展などにより保存樹の魅力を発信している。  □指定本数は減少傾向にある。 □新規保存樹指定本数が減少傾向にある。	評価：優 年に数件程度の指定及び解除があり、全体として減少傾向にあるが、一定数の新規指定がある。	継続実施	◆保存樹に指定されていることの周知を継続する。 ◆指定本数の増加のための取り組みを検討
		アメリカシロヒトリ防除対策事業	●アメシロ発生前の予防散布が効果的であり、予防散布を実施した箇所の90％弱でその後の駆除の必要が無かった。 ●駆除件数は300件前後で推移している。  □害虫の発生が集中した際に、人員が不足し、対応に時間を要する場合がある。	評価：－ 予防薬散布による、発生前の対策継続により、被害発生件数は減少傾向にある。 体制の継続に努めながら、効果的な対策を実施していく。	継続実施	◆引き続き、被害拡大を防ぐため、継続実施
		松くい虫防除対策事業	●計画的な樹幹注入や薬剤散布等により、被害はピーク時から減少傾向にある。  □伐採した松の処理に費用がかかることから、予防対策を徹底することに加え、処理木のウッドチップ化など、有効活用の検討が必要。	評価：－ 特に被害の多い西海岸公園を中心に、マツの本数が多い公園において、薬剤散布や樹幹注入を実施。 令和元年度に被害数のピークを迎え、現在は減少傾向にある。今後も計画的な防除対策を実施し、被害の拡大を抑えていく。	継続実施	◆被害拡大を防ぎつつ、最小限にとどめる対策を引き続き実施。 ◆処理した被害木の活用方法を検討していく。
	維持管理	公園施設長寿命化対策支援事業	●老朽化が進んだ遊具については概ね対応できている。 ●遊具以外の施設についても取り掛かり、概ね予定通り進んでいる。  □限られた予算の中で事業を確実に継続するため、今後は、施設の総量を抑制する考え方を取り入れながら対策を進める。	評価：優 長寿命化計画に基づき、特に老朽化が進んだ遊具の更新を優先して実施。使用禁止等危険な遊具の対策に目途が立ってきている。	継続実施	◆子供たちの安全安心な遊びの確保のため、引き続き遊具などの施設の更新改修に取り組む。 ◆施設の統廃合など、総量抑制の考え方を取り入れた施設管理を検討。
		都市公園安全・安心対策緊急総合支援事業	●利用者が多い公園のトイレや老朽化が進んだトイレについて、バリアフリー化を実施 ●2ha以上の公園のトイレについてバリアフリー化が完了 ●トイレのバリアフリー化率は62％となっている。	評価：優 利用者の多い公園や地元要望等に基づき、トイレのバリアフリー化を実施。 令和7年までの時限措置事業を活用し、計画的に実施している。	継続実施	◆移動円滑化基準変更への対応
		公園施設長寿命化計画策定事業	●令和元年に作成し、概ね10年間の計画で進めている第三次長寿命化計画について、老朽化の進行や対策状況を反映した中間見直しを令和5年度に実施予定。	評価：特優 令和元年に第三次長寿命化計画を策定。交付金を活用し、対策の実施状況等を反映した計画の見直しを進める等、計画の微修正を進めながら実施している。	継続実施	◆公園施設の計画的な更新改修のため、適宜計画の見直しを図っていく。
		公園愛護会	●87％の公園で愛護会が結成され、活動を実施している。  □主な活動主体である自治会の高齢化が進んでいる。 □活動内容の差が見受けられる。	評価：良 87％の公園で愛護会が活動しており、近年横ばいで推移している。 担い手不足や高齢化による解散もあり、今後の体制確保に向けた検討が必要である。	現況改善	◆協働による公園の維持管理や地域が愛着を持って公園に関わっていただけるよう事業を継続していく。 ◆企業単位による参加など、担い手確保のための手法を検討していく。 ◆模範となる活動内容を周知する等、活動内容の差が広がらない様取り組んでいく。
		公園里親制度(アダプト制度)	●30以上の団体が登録され、令和元年度以降大きな現象も無く、概ね横ばいで推移  □活動に対して金銭的支援を行っているが、令和3年度以降支援実績なし。 □市の支援制度を使わず活動している団体の活動実態の把握が難しい。	評価：良 団体数は横ばいで推移している。 一部活動を休止したり、活動実態はあるが、支援を受けずに活動している団体があることから、制度内容の検証、改善の余地がある。	現況改善	◆専門技術を生かした公園管理（WAZA）や、小中学校の総合学習（MIDORI）の取り組みを引き続き推進していく。
広める	意識啓発	緑化活動推進事業	●330団体が公共施設の緑化に取り組んでいる。 ●平成30年度に補助金制度に変更した際に、団体数の減少はあったものの、それ以降は横ばいで推移	評価：優 コロナ禍の影響により一時的に活動団体が減少したが、その後団体数が回復傾向にあり、現在300団体以上が継続的に活動を実施している。	継続実施	
		萬代橋チューリップフェスティバル	●令和2年度より、萬代橋を中心としたエリアに絞って開催しているが、市民の参加者数を維持できている。 ●まちを彩る春の風物詩として定着しており、今後も継続的に実施していく。	評価：特優 毎年400以上の多くの団体・個人（市民、主に園児や小中学生）より参加していただきチューリップを育てていただいており、本市の春の風物詩となっている。	継続実施	◆市民と直接的に協働する事業であり、今後も継続的に推進する
		信濃川やすらぎ堤緑地チューリップ植栽事業	●令和元年に植栽箇所を縮小したが、参加団体数に変更は無く、継続的に実施できている。 ●令和4年度は10の小中学校と4の自治会が参加し、約32,000球の球根を植えている。 ●春には、咲いた後の球根を持ち帰っていただくイベントを実施し、100名前後の参加がある。	評価：優 小中学校の児童・生徒や地元自治会との協働で、毎年約32,000球の球根を植栽しており、本市の春の風物詩となっている。	継続実施	